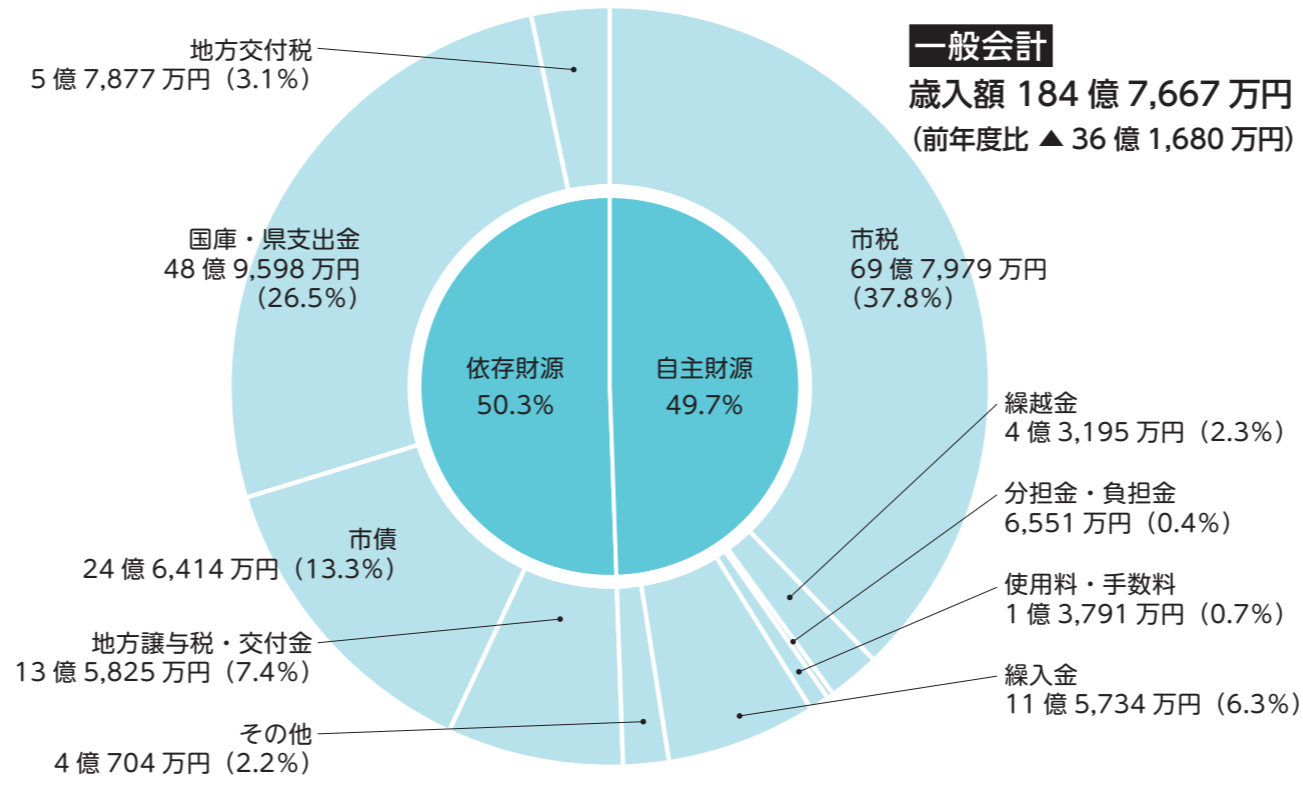


御前崎市の財政



① 令和3年度はどれくらいお金を使ったの？

福祉や土木、教育、消防といった行政の基本的な施策を実施するための会計を一般会計といいます。令和3年度の一般会計の歳入総額は184億7667万円、歳出総額は179億6383万円となりました。歳入と歳出の差のうち、令和4年度に繰り越した財源の3280万円を除くと、4億8004万円の実質黒字となります。



一般会計歳入の主な内訳は、市税が69億7,979万円、国庫・県支出金が48億9,598万円、市債が24億6,414万円、地方交付税が5億7,877万円でした。また、市税などの自主財源は49.7%、国や県からの補助金などの依存財源は50.3%となりました。令和3年度から歳入額が減少している主な要因は、市税が新型コロナウイルスに係る特例措置や大規模償却資産の償却によって減少したこと、国庫支出金が特別定額給付金給付事業の終了によって減少したことが挙げられます。

特別会計及び公営企業会計の決算

| 区分 | | 歳入 | 歳出 | 差引き | |
|--------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|
| 一般会計 | | 1,847,667 | 1,796,383 | 51,284 | |
| 特別会計 | 国民健康保険 | 392,485 | 388,611 | 3,874 | |
| | 後期高齢者医療保険 | 36,527 | 35,452 | 1,075 | |
| | 介護保険 | 290,186 | 280,902 | 9,284 | |
| | 工業団地建設事業 | 2,737 | 2,723 | 14 | |
| 公営企業会計 | 水道事業 | 収益的収支 | 84,377 | 96,556 | ▲12,178 |
| | | 資本的収支 | 15,907 | 32,549 | ▲16,641 |
| | 下水道事業 | 収益的収支 | 122,329 | 118,768 | 3,561 |
| | | 資本的収支 | 26,785 | 46,900 | ▲20,114 |
| | 病院事業 | 収益的収支 | 549,905 | 553,942 | ▲4,037 |
| | | 資本的収支 | 65,377 | 95,577 | ▲30,200 |

※表示単位未満を四捨五入しているため、差引きと一致しない場合があります。

【用語説明】
特別会計… 事業目的を限定し、特定の歳入を特定の支出に充てて経理する会計になります。
公営企業会計… 独立採算による特定の事業を経理する会計で、本市では上下水道と病院の3会計があります。
自主財源… 市が自主的に収入しうる市税などの財源
依存財源… 国や県の意思により交付されたり、割り当てられたりする財源

② 令和3年度に実施した主要な事業



① 市民プール改修事業 (教育費 社会教育課)
事業費 1億945万円
市民プールぶるるを継続利用できるようにろ過装置を改修しました。



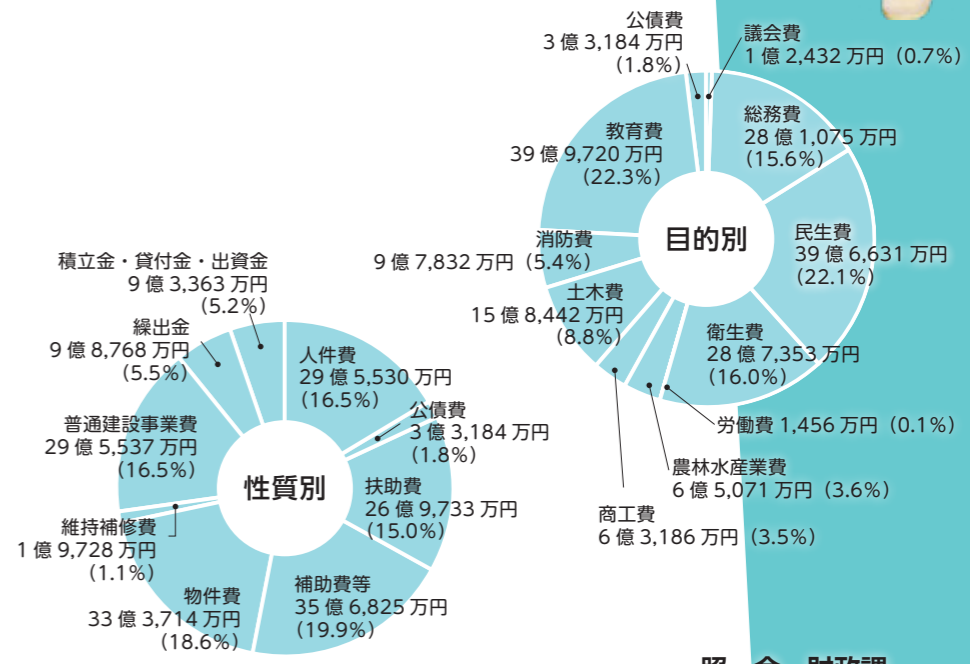
② 津波避難艇設置事業 (消防費 危機管理課)
事業費 1,117万円
津波避難空白地域の解消のために津波避難艇を設置しました。



③ 観光物産会館改修事業 (商工費 商工観光課)
事業費 2,054万円
観光物産会館なぶら館をリニューアルしました。

④ 生活に関わる支出 (一人当たりに使われたお金)
1人当たりのごみ処理費 (衛生費 環境課・上下水道課) 18,488円
1人当たりの公園の管理費 (土木費 管理課) 2,852円

この他にも災害対策や地域の魅力づくり、デジタル化の推進などにお金が使われたよ。



※グラフの数値は表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。※歳入及び目的別は決算書、性質別は国報告数値を基に掲載しています。

【用語説明と使われたお金の分野】
市税… 皆さまからの税金
繰入金… 基金や他会計からの繰入金
市債… 市が借り入れたお金
国庫・県支出金… 国や県からの補助金
地方交付税… 市が一定水準の行政サービスを提供できるように国が配分するお金
議会費… 市議会の運営費

総務費… 総務・戸籍・税務・企画、情報等
民生費… 保育・福祉
衛生費… 健康増進・廃棄物処理
労働費… 雇用対策
農林水産業費… 農林水産業振興
商工費… 商工業・観光振興
土木費… 道路・橋りょう・公園・河川
消防費… 防災・消防・救急

教育費… 幼稚園・こども園・小中学校・社会教育
公債費… 市が借り入れたお金の返済
扶助費… 生活保護や障害者などへの援助費
補助費等… 各団体への助成金など
物件費… 備品購入や委託料など
普通建設事業費… 道路・施設などの整備

照会 財政課
☎0537-851112

3 市の貯金や借入金はどれくらいあるの？

令和3年度末には、市の貯金(基金)は、61・3億円、借入金(市債残高)は91・9億円となりました。



一般会計

令和3年度の市債発行額は、24億6,414万円でした。新給食センター、浜岡中学校、道路・橋りょう、港湾の整備や浜岡保育園の取り壊し、第一小学校の給排水工事などのために借りました。これにより、年度末の市債残高は、91億8,583万円となりました。

令和3年度の基金取り崩し額は、10億8,915万円でした。主な用途は、浜岡中学校、新給食センター、無線中継局の整備、ケーブルテレビの伝送路改修工事の負担金、市民プールの改修工事などです。一方で、基金の運用益や会計の余剰金を8億4,975万円積み立て、年度末の基金残高は61億2,923万円となりました。

会計別基金残高

| 区分 | 基金残高 |
|------------|------------|
| 一般会計 | 61億2,923万円 |
| 国民健康保険特別会計 | 1億6,724万円 |
| 介護保険特別会計 | 5億2,919万円 |

市債残高及び企業債残高

| 区分 | 市債(企業債)残高 |
|---------|------------|
| 一般会計 | 91億8,583万円 |
| 水道事業会計 | 8億3,988万円 |
| 下水道事業会計 | 26億9,695万円 |
| 病院事業会計 | 10億6,627万円 |

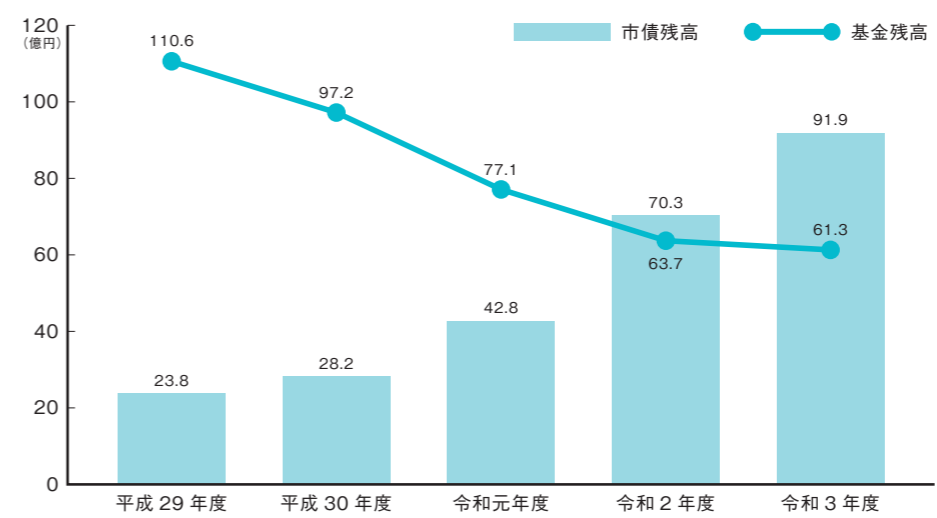
特別会計・公営企業会計

国民健康保険特別会計の基金残高は、医療費の増加や被保険者数の減少による国民健康保険税の減収を補てんするために基金を取り崩したことで、前年度から1,819万円減少し、1億6,724万円となりました。

介護保険特別会計の基金残高は、介護保険料の不足に備えて積み立てたことによって、5,349万円増加し、5億2,919万円となりました。

公営企業の企業債残高は、水道事業会計は1億1,199万円増加し8億3,988万円、下水道事業会計は3億3,100万円減少し26億9,695万円、病院事業会計は4億7,948万円増加し10億6,627万円となりました。主な増加要因は、水道管の整備や市立御前崎総合病院の受変電設備の更新などによる借入れです。

市債残高と基金残高の推移



※上記は一般会計の市債残高となります。(公営企業会計の企業債は含まれていません。)

一般会計の市債残高は増加が続いており、平成29年度から令和3年度にかけて68.1億円増加し、91.9億円となりました。浜岡中学校や新給食センター、道路・橋りょうの整備のために借入れをしていることが主な要因です。今後は、借入金の返済が開始され、公債費(借入金の償還金)が増加していくことが予想されます。

一方で、一般会計の基金残高は減少が続いており、平成29年度から令和3年度にかけて49.3億円減少し、61.3億円となりました。浜岡中学校、新給食センター、ケーブルテレビの伝送路などの施設の整備・維持補修や税収の変動などによる一般会計の財源不足を補うために基金を取り崩したことが主な要因です。

4 財政は健全？ 今後も大丈夫？

地方公共団体の財政の健全性を判断する5つの指標があります。指標には2つの基準があり、1つ目の「早期健全化基準」を超えると市が財政の健全化を図るための計画を立てて、自主的に健全化に努めると市が財政計画を立て、国の関与を受けながら財政を再生する必要があります。御前崎市は、いずれも令和3年度末時点では、健全とされる範囲内でした。

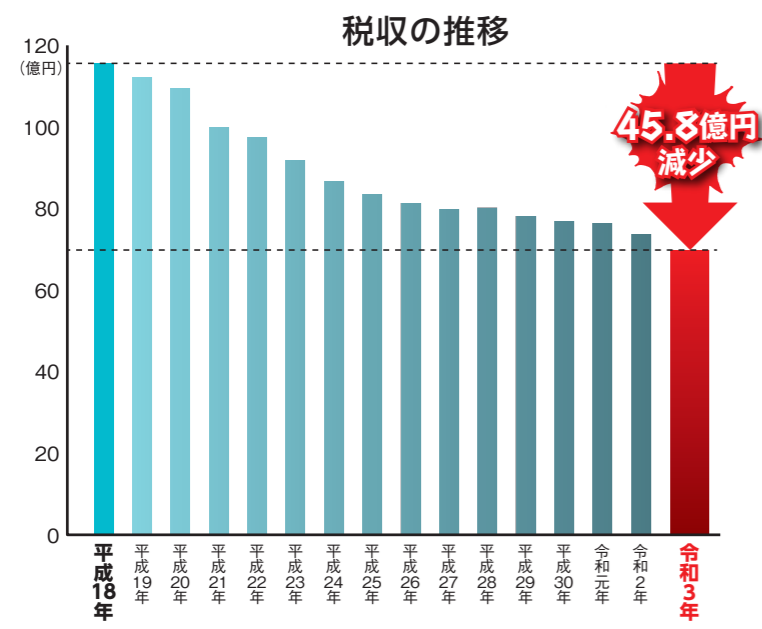


健全性を判断する指標



| | | | | |
|------------|---------|---------|--------|--|
| ① 実質赤字比率 | 御前崎市なし | 13.48% | 20.00% | ① 実質赤字比率 市の福祉や教育、まちづくりなどを行う一般会計等の赤字の程度を表す指標 |
| ② 連結実質赤字比率 | 御前崎市なし | 18.48% | 30.00% | ② 連結実質赤字比率 公営企業会計を含む市の全会計の赤字や資金不足の程度を表す指標 |
| ③ 実質公債費比率 | 御前崎市0.0 | 25.00% | 35.00% | ③ 実質公債費比率 市の標準的な収入に対し、市の一般会計等が負担する借入金の返済額やこれに準じる額の大きさの程度を表す指標 |
| ④ 将来負担比率 | 御前崎市なし | 350.00% | | ④ 将来負担比率 市の一般会計等が借入金や公営企業などに対して将来支払う可能性のある負担などの程度を表す指標 |
| ⑤ 資金不足比率 | 御前崎市なし | 20.00% | | ⑤ 資金不足比率 上下水道や病院などの公営企業の資金不足を営業収益の規模と比較し、経営状況の度合いを表す指標 |

御前崎市の持続可能な財政運営を目指して



御前崎市は、大規模な償却資産からの税収が大きく、その影響もあり財源の減少が続いています。平成18年度には115.6億円だった税収が、令和3年度には69.8億円で減少しており、今後も税収の減少は続く見込みです。

市では近年、税収が減少する前の行政サービスの水準を維持するために貯金や借入金に頼りながらの財政運営を続けています。今後、持続可能な財政運営をするためには、過度に貯金や借入金に頼り続けることはできません。

支出の効率化や適正な受益者負担を求めることに加え、子育てや福祉、医療、ごみ処理、上下水道、農林水産業、商工業、道路・橋りょうなどの公共施設、防災・消防、スポーツ・文化芸術などに関わる行政サービスを限られた資源のなかで、今後、どのように続けていくのか、行政だけでなく市民の皆さまと一緒に考えて、選択していかねばなりません。